塩山北小学校

「生き生きと学びあい，心豊かに生きる子どもの育成」

～言語活動の充実を意識した授業改善を通して～

Ⅰ　研究内容

1　研究の具体的内容と方法

（1）各教科の特性を生かした「言語活動の充実」のための理論研究

（2）授業案の作成及び授業実践

（3）Ｑ－Ｕの実施と結果分析

2　研究実践

（1）「各教科における言語活動の充実」について指導主事を招聘しての学習会

峡東教育事務所主幹指導主事　　小林俊彦先生

（2）授業研究

低学年部会，高学年部会の２つの部会に分かれての授業づくり，授業改善

ア　低学年ブロック研究授業（１０月）

１学年　国語　「くじらぐも」　檜垣貴子教諭

指導助言　峡東教育事務所主幹指導主事　小林俊彦先生

イ　高学年ブロック研究授業（１１月）

５学年　社会　「工業生産を支える人々」　岡村澄人教諭

指導助言　峡東教育事務所指導主事　宮澤洋一先生

ウ　一人一実践の取り組み

各ブロックの研究内容を生かし，一人一実践に取り組む。

２学年	国語	「お手紙」	内田厚子教諭
３学年１組	国語	「ちいちゃんのかげおくり」	鈴木百合子教諭
３学年２組	国語	「かるた」	吉成真麻教諭
４年	社会	「くらしを高めるねがい」	吉本賢司教諭
６年１組	社会	「暮らしの中の政治」	大島めぐみ教諭
６年２組	社会	「戦争から平和へ」	雨宮　正教諭

特別支援　生単・自立「学習発表会をしよう」岡八寿江教諭・野尻あや子教諭

（3）Ｑ－Ｕテストの実施と分析・活用

一人一人の実態に即した支援や指導を進めながら教育活動を展開すれば，本研究に迫ることができると考え，Ｑ－Ｕを実施（５月・１０月）した。そして，各クラスで分析したものを全職員で共通理解を図り，要支援群の児童の指導につなげていった。

（４）読書活動の推進

ア　朝読書の時間を設定。

イ　参観日を活用しての親子での図書室開放。

ウ　長期休業を活用しての家読の取り組み。

エ　異学年間による読み聞かせ「仲良し読書」の取り組み。

Ⅱ　成果と課題

○言語活動を意図的に仕組むことによって，子どもたちが自分の考えを発表したり，交流したりする場面が増え，生き生きとした学び合いができた。よって，副題も含め，今日的教育課題に合ったもので適切であった。

○甲州市の「確かな学力」育成プロジェクトとの関連を図りながら，本校の実態に即した研究を行なうことができた。

○各学年の発達段階に応じた「話し方名人」「聞き方名人」を作成し，各教室に掲示することにより，話す聞く活動への意識化を図ることができた。「学びのルール」や「小集団での話し方のルール」も含め，一貫した共通の指導内容が確立し，指導者が変わっても同じ規律を学べるシステムができたことは大きな収穫であった。

○言語活動の充実を図る上では，「学習集団づくり」がこれまで以上に求められる。集団づくりは，学習支援の基本である。Ｑ－Ｕアンケートの結果分析を通して，学校体制で要支援群の子どもを意識しながら，授業改善を進めていくことができ，大きな成果につながった。

○朝読書やなかよし読書によって本に親しみ，進んで読書をする子どもが増えてきている。また，家読の取り組みは，親ともコミュニケーションをとるよい機会となっている。言語力の育成には読書活動が不可欠である。引き続き読書活動の推進に努めることが大切である。

●ペアでの対話や小集団での話合い活動を仕組むことで，子どもたちは自信をもって発言するようになった。また，興味を持って意見交流を進めていくことが思考を深めていくことにもつながった。言語活動の充実を図っていくためには，子どもの「思考力，判断力，表現力等を育む」ことと密接に関わらせて授業改善を進めていくことが重要である。掲示物の工夫や読書活動の推進など，校内の言語環境の向上にもつとめ，言語に対する興味関心を更に高めていくこと，今年度国語と社会で検証した成果を他教科へ生かしていくことが今後の課題である。

Ⅲ成果物

1　各学年の発達段階に即した「話し方名人」「聞き方名人」，「声のものさし」

2　小集団での話し方のルール

3　授業における学びのルール

4　授業実践指導案およびワークシート

5　家庭学習に関わるアンケート結果（学期ごと）　　（研究主任　　鈴木百合子）